

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 2 部門第 3 区分  
 【発行日】平成26年5月15日 (2014.5.15)

【公開番号】特開2012-218098(P2012-218098A)  
 【公開日】平成24年11月12日 (2012.11.12)  
 【年通号数】公開・登録公報2012-047  
 【出願番号】特願2011-84839(P2011-84839)  
 【国際特許分類】

**B 8 1 B 3/00 (2006.01)**

**G 0 2 B 26/08 (2006.01)**

**G 0 2 B 26/10 (2006.01)**

【F I】

B 8 1 B 3/00

G 0 2 B 26/08 E

G 0 2 B 26/10 1 0 4 Z

【手続補正書】

【提出日】平成26年4月2日 (2014.4.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 9】

－ A 7 －

次に、窒化膜 5 1、5 2 A を除去する。これにより、図 7 (b) に示すように、シリコン基板 1 0 2 A の上面および下面が露出した状態となる。

窒化膜 5 1、5 2 A の除去方法としては、特に限定されないが、上記工程 A 5 と同様、例えば、リアクティブイオンエッチング (R I E)、C F<sub>4</sub> を用いたドライエッチング等が挙げられる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 9 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 9 6】

以下、連結部 2 3 A について代表的に説明し、連結部 2 4 A については、連結部 2 3 A と同様であるので、その説明を省略する。

連結部 2 3 A は、軸線 X に沿って設けられている。また、連結部 2 3 A は、その横断面形状が台形をなしている。

より具体的には、連結部 2 3 A は、軸線 X に平行な方向からみたときに（言い換えると、図 1 2 に示す断面でみたとき）、上下に延び軸線 X を通る線分に対して対称（図 1 2 にて左右対称）な形状をなしている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 9 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 9 9】

第3実施形態の光スキャナーは、可動板の平面視形状が異なる以外は、第1実施形態の光スキャナー1とほぼ同様である。なお、前述した実施形態と同様の構成には、同一符号を付してある。

本実施形態の光スキャナーに備えられた可動板21Cは、図13に示すように、本体部212Cと、この本体部212Cから軸線X方向に両側へ突出する1対の突出部213C、214Cと、本体部212Cから線分Y方向に両側に突出する1対の突出部215C、216Cとで構成されている。これにより、可動板21Cは、平面視にて十字状をなす。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0101

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0101】

本実施形態では、可動板21Cは、板厚方向からの平面視にて軸線Xに対して対称となるように形成されているが、当該平面視にて線分Yに対して非対称となるように形成されている。なお、以下では、欠損部251C、253Cについて代表的に説明するが、欠損部252C、254Cについても同様である。

より具体的に説明すると、欠損部251Cの線分Y方向に沿った長さを $a_1$ とし、欠損部251Cの軸線X方向に沿った長さを $b_1$ としたとき、 $a_1 < b_1$ の関係を満たす。すなわち、欠損部251Cは、軸線X方向に沿った長さが線分Y方向に沿った長さよりも長い長方形をなしている。これにより、可動板21Cの軸線Xから遠位の端部の質量を効率的に低減することができる。そのため、可動板21Cの回転時の慣性モーメントを効果的に抑えることができる。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0105

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0105】

第4実施形態の光スキャナーは、可動板の平面視形状が異なる以外は、第1実施形態の光スキャナー1とほぼ同様である。なお、前述した実施形態と同様の構成には、同一符号を付してある。

本実施形態の光スキャナーに備えられた可動板21Dは、図14に示すように、本体部212Dと、この本体部212Dから軸線X方向に両側へ突出する1対の突出部213D、214Dと、本体部212Dから線分Y方向に両側に突出する1対の突出部215D、216Dとで構成されている。これにより、可動板21Dは、平面視にて十字状をなす。